

建築都市コース(都市システム)アニュアルレポート(2011和文)

1. スタッフ紹介 【都市システム科学域】〈都市空間システム〉

玉川 英則(たまがわ ひでのり)

教授/工学博士

都市・地域解析, 都市・地域計画

9-556室 TEL:042-677-1111 内線4275 htama@tmu.ac.jp

伊藤 史子(いとう ふみこ)

教授/博士(工学)

都市計画, 都市解析, 住環境分析, プロジェクトの経済分析

9-558室 TEL:042-677-1111 内線 4273 itofumi@tmu.ac.jp

饗庭 伸(あいば しん)

准教授/博士(工学)

都市計画, まちづくり, 都市計画制度

9-566室 TEL:042-677-2359 aib@tmu.ac.jp

市古 太郎(いちこ たろう)

准教授/博士(都市科学)

都市防災計画, 災害リスク管理, 事前復興まちづくり

9号館 553室、(042)677 1111 内線 4272 ichiko-taro@tmu.ac.jp

〈都市社会システム〉

星 旦二(ほし たんじ)

教授/医学博士

公衆衛生学, 都市健康科学

9-565室 TEL024-677-1111 内線 4278 star@onyx.dti.ne.jp

竹宮 健司(たけみや けんじ)

教授/博士(工学)

建築計画, 環境行動研究

9-874 室, 042-677-1111 内線 4785 takemiya-kenji@tmu.ac.jp

山本薫子(やまもとかほるこ)

准教授/博士(社会学)

都市社会学,地域社会学,コミュニティ論,社会調査

9-154 室,TEL:042-677-1111 内線 4233 kahoruko@tmu.ac.jp

長野基 (ながのとき)

准教授/修士 (政治学)

都市行政、地方自治、ローカル・ガバナンス

9-560 室

電話 042-677-1111 内線 4163

E-mail : nagano@tmu.ac.jp

<都市システム科学域には、他学域から併任している教員がいる。各併任教員については、それぞれの学域のアニユアルレポートを参照してほしい。>

上野 淳 教授 (建築学域)

長嶋文雄 教授 (都市基盤環境工学域)

加藤 寛 教授 (環境調和材料化学域)

1) スタッフ紹介

玉川 英則 (たまがわ ひでのり) 教授/工学博士
都市・地域解析, 都市・地域計画
9-556室 TEL: 042-677-1111 内線4275 htama@tmu.ac.jp

2) 研究概要

【玉川英則】

都市空間モデルの基礎的特性に関する研究

玉川英則

グラヴィティ型のモデルにより施設あるいは都市の圏域が決定されるという設定には、いかなるインプリケーションが潜んでいるのかを考察した。2次元平面において、距離抵抗係の減少による大局的傾向と、施設のわずかな位置取りの変化が引き起こす重大な影響について、理論及びシミュレーションを完成させ、審査を経て国際会議での発表を行った。

都市の空間特性とアクティビティの関連性に関する研究

玉川英則・王雷・粕谷巧

中国における輸送エネルギーと人口・産業配置に関して、因子分析と重回帰モデルによる分析、および将来予測のシミュレーションを完成させた。この内容について、国際会議での発表を行い、また、審査を経て英文論文を国際学術誌に掲載した。

また、ひったくり犯罪と都市空間の関連性について、東京23区別の傾向を発生時間帯に注目した分析を行った。

都市論に関する研究

玉川英則・宮崎洋司

ジェイン・ジェイコブズの都市論に関する著作(共著)を執筆した。都市の計画論, 都市経済論, 人間倫理論, 都市文明論にわたるその全貌を、彼女の生涯と共に紹介・論評し、それをもとに今後の都市について考察した。

3) 成果リスト

【玉川英則】

1. 審査論文

Lei Wang & Hidenori Tamagawa, "The characteristics of rail freight transportatio

n and provincial factors in China", *International Journal of Urban Sciences*, Volume 15, Issue 1, 2011.4, pp.47-59.

Hidenori Tamagawa, "The Implications of Using a Gravity Model to Determine Territory in a Circular Domain", *Procedia - Social and Behavioral Sciences*, Volume 21 (*International Conference: Spatial Thinking and Geographic Information Sciences*), 2011.9, pp.167-176.

「発生時間帯からみたひったくり事件の地域的特徴に関する研究—東京 23 区内の認知数から—」, 粕谷巧・玉川英則, 『都市科学研究』, 第 4 号

「中国における鉄道貨物輸送量に影響を与える要因に関する実証的研究」, 王雷・玉川英則, 『都市科学研究』, 第 4 号,

2. 口頭発表

Wang Lei and Hidenori Tamagawa, "A comparative study of the relation between city distribution and transportation energy consumption in Japan and China", *2nd International Conference on China's Urban Transportation and City Planning*, Cardiff in UK, 2011.5.

「街路パターンと空間認知の関係性に関する研究-田園調布駅周辺を対象として-」, 平野有良・玉川英則, 2011 年日本建築学会大会学術講演梗概集 F1, pp. 829-830

Hidenori TAMAGAWA, "Seoul-Tokyo, identity and exchange in the usual and emergence", Key note speech for *Seoul-Tokyo Joint Seminar 2011 "Current Issues on Urban Affair of Capital City Seoul and Tokyo"* on 2011.9.26 at UOS in Seoul.

Lei WANG and Hidenori TAMAGAWA, "National land policy and prediction of rail freight transportation energy in China", *Seoul-Tokyo Joint Seminar 2011 "Current Issues on Urban Affair of Capital City Seoul and Tokyo"* on 2011.9.26 at UOS in Seoul.

Taro ICHIKO, Shinji KAWAMURA and Hidenori TAMAGAWA, "Case study of preliminary actions for recovery planning in Noda village from the Tsunami", *Seoul-Tokyo Joint Seminar 2011 "Current Issues on Urban Affair of Capital City Seoul and Tokyo"* on 2011.9.26 at UOS in Seoul.

Hidenori Tamagawa, "The Japanese current status and future outlook of Urban Sciences", Key note speech for *The retrospects and prospects of Urban Sciences -15*

th anniversary of College of Urban Sciences and 30th anniversary of Graduate School of Urban Sciences, on 2011.10 at UOS in Seoul.

Hidenori Tamagawa, "What is compactness for the city?", *France-Taiwan-Japan Workshop -Globalization and Urban Dynamics in Asia, Comparative Approaches of Scientific and Politic "Hot Issues"*, on 2011.12 at Maison Franco-Japanese in Tokyo.

3. その他

3-1. 専門書

『都市の本質とゆくえ』, 宮崎洋司・玉川英則, 鹿島出版会, 2011年5月

3-2. 研究報告

「中国における鉄道貨物輸送エネルギーの視点から見た国土・エネルギー政策の評価と課題」, 王雷・玉川英則, 都市計画報告集, Vol. 10-2, pp. 67-71, 2011.9

3-3. 解説・評論

「待つ」, 玉川英則, 『GIS-理論と応用』, Vol. 19-1 巻頭言

「形が見える瞬間(とき)」, 玉川英則, 『GIS-理論と応用』, Vol. 19-2巻頭言

3-4. その他

Hidenori TAMAGAWA, Fumiko Ito, Taro ICHIKO, Tanji HOSHI, Kenji TAKEMIYA, Shin AIBA, Kahoruko YAMAMOTO and Motoki NAGANO, "Interdisciplinary scientific research to realize safety, security, and sustainability in urban areas", Oral presentation for *ISSUE at TMU*, 2011.11.

Taro ICHIKO, Shinji KAWAMURA and Hidenori TAMAGAWA, "Case study of preliminary actions for recovery planning in Noda village from the Tsunami", Poster presentation for *ISSUE at TMU*, 2011.11.

Lei Wang and Hidenori Tamagawa, "A Predicting study on the Rail Freight Transportation in relation to the National Land and Energy Policy in China", Poster presentation for *ISSUE at TMU*, 2011.11.

4) 特定学術研究

産学共同研究費

代表 吉川徹／副代表 玉川英則，地域情報共有プラットフォーム構築研究会，37.5万円
(総額)

1) 和文スタッフ紹介

伊藤 史子 (いとう ふみこ) 教授/博士(工学)

都市計画, 都市解析, 住環境分析, プロジェクトの経済分析

9-558室 TEL: 042-677-1111 内線4273 itofumi@tmu.ac.jp

2) 研究概要

住環境に関する研究

伊藤史子

本研究は、都市の状態、住民や訪問者の評価、それらの関係を分析することにより、快適な住環境の構築への示唆を得るものである。2011年度は、昨年度行った保健性の観点から住環境を評価するための二都市でのアンケート調査の結果をもとに、住環境や住宅の状況が子育て世帯の健康感に与える影響を明らかにした（口頭発表、一般論文）。二国間交流プロジェクトにて、子どもの遊び環境調査および居住者の住環境評価支援の研究を行った。結果は学会で中間報告予定である（2012秋建築学会大会）。都市内の落書きの一種であるグラフィティの分布の調査をもとに発生状況を分析した（査読論文、口頭発表）。

都市情報・不動産情報の伝達に関する研究

伊藤史子

本研究では都市情報や不動産情報の適切な伝達内容と方法について研究を展開している。個人嗜好に合わせた訪問推奨エリア情報の地図化についての分析を2011年度も継続しており、来訪者の個人嗜好の傾向と開催地域の小エリア別特性を明らかにした（口頭発表、一般論文）。

都市のプロジェクトの評価に関する研究

伊藤史子

本研究では、都市の様々なプロジェクトの評価を経済的な手法等を用いて行い、プロジェクト実施に際しての示唆を得ることを目指している。2011年度は、道の駅の構成施設に関するコンジョイント分析を行った他、中国科学院地理科学資源研究所の協力を経て北京の歴史住宅「四合院」の保存可能性に関する研究に取り組んだ。

3) 成果リスト

1. 審査論文 : 学術雑誌等に掲載の審査付き論文
2. 口頭発表 : 学会, 研究会等での口頭発表

拜志侑子、伊藤史子

道の駅に求められる機能に関する研究-利用者を対象としたコンジョイント分析、『日本建築学会大会学術講演梗概集』、F分冊、2011年。

鈴木綾子・伊藤史子

個人嗜好を考慮した訪問エリア選択支援システムの提案-越後妻有大地の芸術祭における実証実験事例、『日本建築学会大会学術講演梗概集』、F分冊、2011年。

羽室早瑛、伊藤史子

都市における経路選択時の心理的評価軸と注視対象-三鷹駅周辺のさまよい行動の分析、『日本建築学会大会学術講演梗概集』、F分冊、2011年。

伊藤史子・小杉理理子・他3名

健康維持増進住宅に関する研究（その49）子育て期世帯の健康と住環境・住まいに関する調査の基本設計と小布施調査の概要、『日本建築学会大会学術講演梗概集』、F分冊、2011年。

小杉理理子・伊藤史子・他2名

健康維持増進住宅に関する研究（その50）八王子市における子育て期世帯調査の結果と住環境・住まいによる健康形成要因モデル形成、『日本建築学会大会学術講演梗概集』、F分冊、2011年。

3. その他

3-1. 専門書 : 専門書, 学術書, 訳書

3-2. 研究報告 : 研究報告書, 報告記事, 等

3-3. 解説・評論、一般論文

布川悠介・伊藤史子

道路ネットワーク上におけるグラフィティ分布の空間分析-高円寺駅周辺を対象として-、『地理情報システム学会講演論文集』、20巻、2011年。

羽室早瑛・伊藤史子経路選択における心理的評価軸と注視対象に関する研究-三鷹駅周辺でのさまよい行動実験-、『地理情報システム学会講演論文集』、20巻、2011年。

藤岡茂・伊藤史子

森林・水減税の現状とそのあり方に関する考察、『都市科学研究』、Vol. 4、41-52、2012年。

鈴木綾子・伊藤史子

個人嗜好を考慮した訪問エリア選択支援システム-越後妻有大地の芸術祭における実証実験報告-、『都市科学研究』、Vol. 4、53-60、2012年。

小杉理理子・伊藤史子

住環境・コミュニティ、住まいと子育て世帯の健やかな生活、『都市科学研究』、Vol. 4、61-70、2012年。

1) スタッフ紹介 【都市システム科学域】〈都市空間システム〉

饗庭 伸(あいば しん) 准教授/博士(工学)

都市計画, まちづくり, 都市計画制度

9 - 566室 TEL:042-677-2359 aib@tmu.ac.jp

2) 研究概要

【饗庭 伸】

震災復興に関する研究

饗庭 伸

東日本大震災の復興過程を対象に、その計画立案手法について研究を行った。成果を雑誌等に発表したほか、岩手県大船渡市に対する計画策定支援を行った。

人口減少時代における都市計画のあり方に関する研究

饗庭 伸

人口減少時代における都市空間のあり方やモデルをふまえ、都市計画や都市空間デザインの方法について理論的な検討を行った。結果を日本都市計画学会や日本建築学会のシンポジウム等における招聘講演として発表した。

都市建築ストック活用型都市計画に関する研究

饗庭 伸

市街地に増加する空家等の都市建築ストックの利活用および除去について、都市計画的視点からアプローチする計画技術の開発と実践を行った。具体的には大都市郊外の空家ストック再生の実験、地方都市中心部における空家等の利活用、除去のマスタープランの作成等を行った。

東アジア諸国のまちづくりの歴史に関する比較研究

饗庭 伸

台湾, 韓国, 日本の3カ国を対象に、戦後のまちづくり(台湾では「社区营造」, 韓国では「マウルマンドゥルギ」)の比較研究を行った。これまで積み重ねてきた現地調査の知見をまとめ、書籍としてとりまとめる執筆を行った。

まちづくりの技術開発に関する研究

饗庭 伸

市民とまちづくりの情報を共有する手法についての技術開発を行い、実証実験を行った。具体的には、スマートフォンを用いて景観に関する情報を収集するデータベースのシステム(東京都三鷹市)、商店街に関する情報の共有(東京都大田区)でそれぞれ 実践的に手法の検証を行った。

3. 研究成果リスト

【饗庭 伸】

1. 審査論文

饗庭 伸・中山哲士・住田旭宏・諸岡俊祐「市民参加型ヒートアイランド調査手法の開発」, 日本建築学会技術報告集, 第38号, pp. 341-346, 日本建築学会, 2011年11月

2. 口頭発表

3. その他

3-1. 専門書

3-2. 研究報告

3-3. 解説・評論・一般論文

「イスタンブールの3人の日本人」を巡って：建築とオリエンタリズムの先にあるもの, ジラルデッリ青木 美由紀・饗庭 伸, 建築雑誌 126(1618), 53, 2011年5月

「仮設市街地・集落」におけるまちづくりを, 饗庭 伸・澤田 雅浩, ガバナンス (122), 12-15, 2011年6月

復興まちづくり支援のネットワークとガバナンス, 饗庭 伸, 都市計画 60(5), 78-79, 2011年6月

避難地のコミュニティ形成, 饗庭 伸, 地方自治職員研修 44(9), 133-142, 2011年7月

東日本大震災被災都市・都市計画カタログ, 饗庭 伸・饗庭研究室, 季刊まちづくり, 第32号, pp99-108, 学芸出版社, 2011年9月

全体×レイヤーモデルと都市建築空間, 饗庭 伸, 都市計画 60(3), 95-98, 日本都市計画学会, 2011年11月

4. 特定学術研究

研究者	件数	種別・題目・金額・企業名等
文部科学省科学研究費		
饗庭伸 伊藤史子		〔代表：基盤研究C〕 一般市街地における景観形成行動を支援する市民参加型都市景観データベース技術の開発 190千円
その他		
		なし

5. 学位論文リスト

【修士論文：都市システム科学域】

学位取得者	論文題目
国重安沙	地域コミュニティの拠点の変遷 -記録を残さなかったまちの繋がり-の歴史 -
小森谷奈月	戦後の大火復興土地画整理事業に見る都市の空間特性-飯田大火、熱海大火、酒田大火を比較して-
蔡雅静	大都市における地下街の変遷と今後のあり方に関する日中比較研究
元神理明	店舗の入れ替わりに注目した持続している商店街の特性に関する研究
八隅裕介	天空率・建物高さ・容積率の変化に着目した都市空間の変遷に関する研究
山崎健太郎	社会的ネットワークによる建築ストックのシェア型活用についての研究-やぼろじにおけるケーススタディー-
尹美眞	住商複合建物の運営・管理に関する韓日比較研究 - 1960年代中頃~1970年代前半に建てられた建物を対象にして -

1) スタッフ紹介

市古 太郎(いちこ たろう)准教授／博士(都市科学)

都市防災計画、災害リスク管理、事前復興まちづくり

9号館 553室、(042)677 1111 内線 4272 ichiko-taro@tmu.ac.jp

2) 研究概要

(1) 東日本大震災津波被災地における避難行動実態調査

3.11 に発生した東日本大震災の津波被害では、避難行動が生死をわけている。内閣府による調査等も実施されているものの、民政児童委員や消防団の対応など、「他者を助ける」行動をとられた方々の実像が明らかとなっていない。そこで学外の防災研究者と調査チームを結成し、岩手県野田村、山田町、宮城県石巻市で聞き取り調査を進めている。調査経過報告について建築学会誌で報告を行った。

(2) 事前復興まちづくりに関する研究

首都直下地震による甚大な被害想定を前にして、被害をゼロに抑えることは不可能であり、「事前から復興に備える」という視点から間接被害を軽減化するため、住民、行政、専門家のまちづくり手法を開発するものである。

平成23年度は、八王子市別所二丁目地区で地域協働復興訓練の企画運営に従事し、発災直後の帰宅困難者が多い段階で、集合住宅管理組合として、近隣の組合とも協力しながら、どう安否確認をし、生活支障期を乗り越えていくか、「共助のデザイン」についてワークショップをおこなった。また昨年度に引き続き、東京都都市整備局の都市復興図上訓練の運営に協力し、大地震後の復興都市計画の策定について、検討をおこなった。

(3) ポスト3・11 都立高校における災害想像力と対応力向上のための学習プログラムの開発

東日本大震災では、公共交通機関の運休により、都内で帰宅困難となった児童生徒が多数発生した。東京都教育庁の調査によれば、発災翌日の3/12の13時半時点で、学校で待機していた生徒数は、都立高校で7,288人、中等教育学校で610人、都立中学校で68人と報告されている。その一方、帰宅支援ステーションとなった都立高校において、飲料水や毛布の配布など、生徒がボランティアとして活動した学校が8校という報告もなされている。

このような状況を踏まえ、来たる首都直下地震時の児童生徒の初動対応について、教育庁、学校、家庭、地域、それぞれのレベルで、3.11を教訓として、これまでの備えを再点検し、対策に取り組んでおく必要がある。

本研究では、大災害時の学校周辺での被害をイメージし、登下校時の対応判断能力を向上させること、災害時に高校生徒にできる社会貢献を自ら考えていくための方法論を開発するものである。

平成23年度は、東京都教育庁へのヒアリングと都立田無工業高校での防災モデル事業を企画実施した。

なお本研究は、都庁との連携研究として実施しているものである。

3) 成果リスト

1. 審査論文

Taro ICHIKO (2012) Ten Years of Pre-Disaster Community Development for Post-Disaster Recovery in Tokyo, Journal of Disaster Research, Vol.7 No.3, pp.215-226

市古太郎、磯打千雅子、土屋依子、村上正浩(2011)「自主防災組織の活動特性を踏まえた連携実績と連携ニーズに関する調査-東京都町田市を対象に-」、地域安全学会論文集 No.13, pp.405-414

Taro ICHIKO, Jin Yoshikawai and Itsuki Nakabayashi (2011)Pre-disaster planning for post-disaster recovery in Tokyo - Case study in Nerima Wards -, 11th International Congress of Asian Planning Schools Association, E-6-1

2. 口頭発表

市古太郎 (2011)「中野区における都市計画・まちづくり分野に関する事務事業評価の現状と課題」、日本建築学会大会梗概集、2011/8

田中雄士、市古太郎、長谷川庄司、中林一樹 (2011)「大規模地震災害被災地における住宅復興プロセスに関する研究」、日本建築学会大会梗概集、2011/8

3. その他

3-1. 専門書

特になし

3-2. 研究報告

市古太郎 (2011)「山田町、野田村の復興まちづくり支援活動:「寄り添う」カタチの多様性」、建築雑誌 2011 年 12 月号, vol. 126 No.1625, pp.4-6

市古太郎 (2011)「防災復興研究者として、3.11 後に走りながら感じ、行動したことから考える」2011 年度建築学会大会 PD『これからの都市防災』資料, pp.32-34

市古太郎 (2011)「『いま、ここ』で始める事前復興まちづくり」ひょうご震災記念 21 世紀研究機構. 『災害対策全書 4 防災・減災』, ぎょうせい, pp.98-101

市古太郎 (2011)「POKMAS,T-Shelter から発想すること—インドネシアにおける巨大地震からの住宅再建スキームから考える—」都市計画, 291 号, pp.54-57

3-3 解説・評論

特になし

4) 特定学術研究

(受託研究費による研究) 1件・150万円(研究代表)

(提案公募型研究費による研究) 1件・500万円(分担研究者)

研究代表者(饗庭伸)・首都直下地震防災・減災特別プロジェクト「広域的危機管理・減災体制の構築に関する研究」

(文部科学省科学研究費) 1件・190万円

研究代表者, 基盤 C, スマトラ島西部地震からの現地漸進型と集団移転型集落再建プロセスの空間論的比較分析(2011-2013年度)

<都市社会システム>

星 旦二 (ほし たんじ) 教授/医学博士

公衆衛生学, 都市健康科学

9-565 室 TEL024-677-1111 内線 4278 star@onyx.dti.ne.jp

<都市社会システム>

【星 旦二】

都市の健康水準改善と健康維持要因に関する研究

星 旦二

都市の健康水準とその規定要因を研究してきた。特に、高齢者の健康維持要因追跡研究として、都市 1.3 万人、地域 2.2 万人、合計 3.5 万人の生存追跡研究を実施し、健康三要素間の因果関係を世界で初めて明確にした。

また、生きがいと健康寿命それに社会経済要因との因果構造を明確にした。その他、歯科保健、子供の健康、建築関連の調査権杞憂を実施してきた。博士取得者は、累計 16 名となった。

3. 研究成果リスト

1. 審査論文

1. 栗盛須雅子, 星旦二; 住民グループ活動の可能性を広げる保健師の役割 『地域保健スタッフのための「住民グループ」のつくり方・育て方』を出版して; 保健師ジャーナル 67 巻 1 号 Page48-52(2011.01)
2. 井上直子, 星旦二; 後期高齢者における外出能力を規定する身体的・社会的・精神的健康要因の因果構造分析; 日本健康教育学会誌 19 巻 1 号 Page36-47(2011.02)
3. 田野ルミ, 星旦二; QOL 向上を目指す口腔ケアと健康長寿; 日本歯科衛生学会雑誌 5 巻 2 号 Page6-15(2011.02)
4. 高嶋伸子, 星旦二, 中山照美, 今井直子, 佐々木純子保健計画策定・推進に参画した住民の主体性形成過程; 日本地域看護学会誌 13 巻 2 号 Page86-92(2011.03)
5. 栗盛須雅子, 福田吉治, 星旦二, 大田仁史; 茨城県 5 市町における障害者の割合の経年変化による介護予防事業のアウトカム評価の試み; 社会医学研究 28 巻 1 号 Page35-42(2011.03)
6. 山本千紗子, 星旦二; 都市部地域在宅高齢者の認知症見逃し割合は着実に減少 6 年間の追跡調査より (Steadily decreasing proportion of overlooked dementia in community-dwelling Japanese elderly: six-year follow-up in an urban population) (英語); 社会医学研究 28 巻 1 号 Page1-7(2011.03)
7. 中山直子, 村松健司, 鈴木享子, 木下正信, 上野淳, 星旦二; 大学生の学生生活の充実と入学時の自分への自信との因果構造分析; CAMPUS HEALTH48 巻 2 号 Page198-203(2011.03)
8. 高城智圭, 星旦二; 幼児期の母親における子育てに関する認識の構造分析; 日本看護学会論文集: 地域看護 41 号 Page84-87(2011.04)

9. 福本久美子, 高城智圭, 星旦二; 【地域健康を高めるまちづくり】 データ分析に基づく健康づくり実践効果; 体育の科学 61 巻 6 号 Page411-415(2011.06)
10. 星旦二, 高城智圭, 坊迫吉倫, 中山直子, 楊素雯, 栗盛須雅子, 長谷川卓志, 井上直子, 山本千紗子, 高橋俊彦, 櫻井尚子, 藤原佳典; 都市郊外在宅高齢者の身体的、精神的、社会的健康の 6 年間経年変化とその因果関係; 日本公衆衛生雑誌 58 巻 7 号 Page491-500(2011.07)
11. 中山直子, 田村道子, 高橋俊彦, 星旦二; 首都圏における児童生徒の Well-Being と保護者の認識との関連と構造; 日本公衆衛生雑誌 58 巻 8 号 Page595-605(2011.08)
12. 栗盛須雅子, 福田吉治, 星旦二, 大田仁史; 【医療・経済・社会】 「質」を加味した高齢者健康指標の考え方と現状; 保健医療社会学論集 22 巻 1 号 Page13-25(2011.08)
13. 田野ルミ, 星旦二超高齢社会で知っておいてほしい話題を紹介; 都市部在宅高齢者にみるかかりつけ歯科医"の存在意義" ; The Quintessence30 巻 9 号 Page159-165(2011.09)
14. 栗盛 須雅子,福田 吉治,星旦二; 「質」を加味した高齢者健康指標の考え方と現状 (特集 医療・経済・社会); 保健医療社会学論集 22 巻 1 号; pp13-25、2011
15. 星旦二,中山 直子; 都市郊外自治体の平均寿命、要介護認定割合の実態と健康寿命を規定する各要因の因果構造; 多摩ニュータウン研究 13 号,pp108-111、2011
16. 加藤 龍一,星旦二; 超高齢社会の住宅、住環境と外出する力--高齢者にとって階段は本当にバリア(障壁)なのか?; 共済総合研究 62, 8-26, 2011-03
17. 下山田鮎美、星旦二; ボランティア・グループ成員のコミュニティへの主体的・能動的関与意識に関する共分散構造分析; 社会医学研究. 第 29 巻 1 号 pp9-19
18. 竹末加奈、井上和男、小林美智子、星旦二; 特定保健指導を受けた対象者の思いー ポジティブ・ネガティブの両側面についてー ; 社会医学研究. 第 29 巻 1 号 pp31-38
19. Suwen Yang, Tanji Hoshi, Motoyuki Yuasa, Naoko Nakayama, Chika Takagi, Naoko Inoue, Toshihiko Takahashi , Naoko Sakurai c & Yoshinori Fujiwara ; Structural analysis of the effects of dietary and lifestyle habits, socioeconomic status, and three healthrelated factors on urban elderly in Japan ; International Journal of Urban Sciences Vol. 16, No. 1, March 2012, 23-36
20. Motoyuki Yuasa, Tanji Hoshi, Takashi Hasegawa, Naoko Nakayama, Toshihiko Takahashi, Sugako Kurimori, Naoko Sakurai ; Causal relationships between physical, mental and social health-related factors among the Japanese elderly: A chronological study ; Health 4 (2012) 133-142
21. 星旦二,南 雄三; 対談 「健康」で住宅の話をしよう (特集 『健康』でつくる省エネ住宅); 建築技術; 732 号 pp180-189,2011

2. 口頭発表

1. 星旦二, 高城智圭, 井上直子, 栗盛須雅子, 高橋俊彦, 櫻井尚子, 藤原佳典; 都市郊外在住高齢者の要介護度を規定する社会経済的要因と生活習慣と健康三要素との因果構造分析; 日本健康教育学会誌,19 巻 Suppl. Page86(2011.06)

2. 星旦二；口腔ケアと健康寿命 かかりつけ歯科医の機能と歯科衛生士の役割；日本歯科衛生学会雑誌 6 巻 1 号 Page65 (2011.08)
3. 山本千紗子, 星旦二；着実に減少している認知症有病割合 首都圏 A 市在宅高齢者の 6 年間追跡調査より；日本認知症ケア学会誌 10 巻 2 号 Page448 (2011.08)
4. 片岡千香, 福永一郎, 中島信恵, 星旦二；保健所による市町村健康増進計の評価支援への取組；
日本公衆衛生学会総会抄録集 70 回 Page455 (2011.10)
5. 菅又昌実, 吉田靖子, 星旦二, 小倉泉；東日本大地震における宮城県ない避難所の実態に関する公衆衛生学的調査；日本公衆衛生学会総会抄録集 70 回 Page409 (2011.10)
6. 谷村秀樹, 矢吹義秀, 福澤洋一, 小林憲司, 古藤真実, 西辻直之, 中曾根隆一, 木村充, 田野ルミ,
井上和男, 星旦二；歯科医院受診者における Quality of Life(QOL)と口腔ケアとの関連パス解析を用いて；日本公衆衛生学会総会抄録集 70 回 Page384 (2011.10)
7. 星旦二, 高城智圭, 中山直子, 湯浅資之, 栗盛須雅子, 櫻井尚子；健康寿命と社会経済要因の前期後期高齢者別に見た因果構造；日本公衆衛生学会総会抄録集 70 回 Page277 (2011.10)
8. 湯浅資之, 城川美佳, 星旦二, 北島勉, 田中誠二, 丸井英二；都道府県別パネルデータを用いた日本人 0 歳と 65 歳時平均余命と関連する要因分析；日本公衆衛生学会総会抄録集 70 回 Page157 (2011.10)
9. 福永一郎, 片岡千香, 中島信恵, 星旦二；小規模自治体における保健活動や健康状態の評価方法について；日本公衆衛生学会総会抄録集 70 回 Page456 (2011.10)
10. 出口 満, 伊香賀 俊治, 白石 靖幸, 星旦二, 川久保 俊, 奥村 公美；構造方程式モデリングに基づく住宅・地域環境の健康影響評価(環境工学)；社団法人日本建築学会 145-148
11. 安藤 真太郎, 大重 和恵, 謝敷 宗嗣, 白石 靖幸, 伊香賀 俊治, 星旦二；都市間比較による住宅・地域環境の健康決定要因に関する研究：(その 1)多変量解析に基づく郊外 3 都市の異質性に関する検討(環境工学)；日本建築学会研究報告. 九州支部. 2, 環境系, 50, pp233-236 2011
12. 謝敷 宗嗣, 安藤 真太郎, 白石 靖幸, 伊香賀 俊治, 星旦二；都市圏郊外住宅地における住まい・コミュニティの健康形成要因に関する研究：(その 6)多変量ロジスティック回帰分析を用いた健康形成要因の探索(環境工学)；日本建築学会研究報告. 九州支部. 2, 環境系；50, pp229-232, 2011

11. 安藤 真太郎,大重 和恵,白石 靖幸,伊香賀 俊治,星旦二 ; 都市圏郊外住宅地における
住ま
い・コミュニティの健康形成要因に関する研究 : (その 5) 地理・社会的要素を考慮し
た健康形成
の階層性に関する基礎的検討(環境工学) ; 日本建築学会研究報告. 九州支部. 2, 環境
系 ;
50,pp225-228,2011
12. 大重 和恵,安藤 真太郎,白石 靖幸,伊香賀 俊治,星旦二 ; 都市圏郊外住宅地における住
まい・コ
ミュニティの健康形成要因に関する研究 : (その 4) 住民の主観評価と地理的客観指標
の相関分析
(環境工学) 日本建築学会研究報告. 九州支部. 2, 環境系 ; 50,pp221-224,2011
13. 高城智圭,貴志義孝,星旦二 ; 加齢受容と充実健康感を支える社会関係性の因果構造 ;
第 52 回日本社会医学会総会講演集、50-51,2011.7
14. 山本千沙子,星旦二 ; 東京都 A 市在宅高齢者の認知症有病割合の推移 : 6 年間の追跡調
査より ;
第 52 回日本社会医学会総会講演集、64-65,2011.7
15. 星旦二,高城智圭,中山直子,湯浅資之,櫻井尚子 ; 高齢者の健康寿命を支える社会経済要
因の因
果構造 ; 第 52 回日本社会医学会総会講演集、pp68-69,2011.7
16. 栗盛須雅子,福田吉治,星旦二,大田仁史 ; 茨城県 5 市町村における介護予防事業のアウト
カム評価 ;
第 52 回日本社会医学会総会講演集、74-75,2011.7
17. 中山直子,高燕,楊素雯,星旦二 ; 子どもたちの生活習慣と保護者の心がけとの関連 ; 第
52 回日本 社会医学会総会講演集、118-119,2011.7
18. 中華人民共和国における新婚検査と妊婦検査サービス利用との関連要因 ; 第 52 回日本
社会医学会総会講演集、12-121,2011.7
19. 増成和平,星旦二 ; 小児アレルギーと住環境の関連 ; 第 52 回日本社会医学会総会
講演集、136-137,2011.7
20. Suwen Yang, Tanji Hoshi, Naoko Nakayama; The Related Factors of Emerging and
Reemerging Infectious Disease in East and Southeast Asia. 第 52 回日本社会医学会総会講
演集、152-153,2011.7
21. 竹末加奈,井上和男,小林美智子,星旦二 ; 特定保健指導に対する対象者の思いーポジテ
ィブ・ネガティブの両側面についてー ; 第 52 回日本社会医学会総会講演 54-55、2011.7
22. Suwen Yang, Tanji Hoshi, Naoko Nakayama ; Chronological Causal Relationships between
Socio-economic Status, Lifestyle Habits and Health-related Factors in the Japanese Urban
Elderly、1st WORLD Congress on Healthy Ageing,p81,2012.3

3. 書籍

星 旦二編著 公衆衛生 医学書院

星 旦二編著 保健医療福祉行政論 日本看護協会

星 旦二著 なぜ、かかりつけ歯科医のいる人は長寿なのか. ワニプラス新書. 東京.2012

(1) 和文版

1) スタッフ紹介

竹宮 健司 (たけみや けんじ) 教授/博士 (工学)

建築計画, 環境行動研究

9-874 室, 042-677-1111 内線 4785 takemiya-kenji@tmu.ac.jp

2) 研究概要

【竹宮健司】

(1) 救命救急センターの建築計画に関する研究

近年の医療技術の進歩や疾病構造の変化に対応した救命救急センターの建築計画指針の設定が求められている。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。1) 全国の救命救急センターの整備状況および空間構成の特徴, 2) 地域特性に応じた救命救急センターの整備要件

(2) 精神医療施設の建築計画に関する研究

精神疾患患者の回復段階に対応した施設環境の整備が求められている。今年度は、先駆的な精神科急性期治療病棟の利用実態分析から、新たな病棟計画に関する知見を導出した。

(3) がん医療の進展に対応した施設計画に関する研究

先駆的な地域を対象として、がんサロンおよびがん相談支援センターの利用実態調査を実施し、包括的ながん相談支援環境に関する検討を行った。

(4) 高齢者・障がい者のための居住環境整備に関する研究

高齢者や障がい者が住み慣れた地域や居住施設に住み続けられるためには、適切な支援サービスの提供とともに居住環境の整備も重要な要因となる。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。1) 古民家の空間構成を活用した宅老所の建築計画, 2) 視覚障がい者の散策行動特性に関する実態分析, 3) 重症心身障がい児者レスパイトケア施設の施設整備状況・利用実態分析, 4) 緩和ケアを提供する有床診療所の利用実態分析

成果リスト

【竹宮健司】

口頭発表

Yongil JEON, Kenji TAKEMIYA

Facility Planning for Cancer Counseling and Support Centers: A Case study of Cancer Salons in Shimane Prefecture

Proceedings of the International Symposium on Sustainable Urban Environment 2011, p. 97-98, 2011

竹宮健司, 小林健一

独立型救命救急センターにおける搬送患者の疾患別施設利用特性—救命救急センターの建築計画に関する基礎研究—

第 39 回日本救急医学会総会・学術集会, プログラム・抄録集, p. 375, 2011

Yongil JEON, Kenji TAKEMIYA

Cancer medicine and the facility planning in Japan

University of Seoul・Tokyo Metropolitan University Joint Seminar 2011, SEOUL

田龍一・竹宮健司

がん相談支援環境の建築計画に関する基礎的研究

日本医療・病院管理学会誌, Vol. 48 Supplement, p. 165, 2011 年

今泉麻由子・竹宮健司

病児保育施設の保育看護環境に関する実態分析

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 157, 2011 年

上赤坂典幸・竹宮健司

重症心身障がい児者レスパイトケア施設の建築計画に関する研究

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 173, 2011 年

田龍一・竹宮健司

がん相談支援センターの整備状況と先行事例分析 がん医療の発展に対応した医療施設計画に関する研究 その 4

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 247, 2011 年

島津江玲奈・竹宮健司・小林健一

救命救急センターの診療関連諸室の整備状況 救命救急センターの治療環境に関する研究

その4

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 273, 2011 年

安井基浩・竹宮健司

コミュニティセンター内ロビーの利用特性・空間構成に関する考察 武蔵野市におけるケーススタディ

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 303, 2011 年

坪浩輝・竹宮健司

高齢者専用賃貸住宅における自立高齢者の居住様態の経年変化に関する考察

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊, p. 317, 2011 年

横森圭・竹宮健司

子育て支援マンションの整備動向に関する考察 自治体と民間の認定制度比較

日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1 分冊, p. 1367, 2011 年

嶺野あゆみ・竹宮健司

視覚障がい者の散策行動特性に関する考察 東京都日野市におけるケーススタディ

日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1 分冊, p. 1491, 2011 年

講演

第 35 回日本死の臨床研究会年次大会

シンポジウム 3 「子どもホスピス：その理念と歴史，我が国における展望」

指定発言：竹宮健司「子どものホスピスの環境デザイン：英国の事例と我が国の展望」

2011 年 10 月 9 日（日）会場：幕張メッセ

3) 特定学術研究

竹宮健司（代表）

文部科学省科学研究費（基盤研究 C）

精神疾患患者の継続的な受療行動分析に基づく包括的社会復帰支援システム・環境の構築

竹宮健司（分担）

文部科学省科学研究費（基盤研究 C）

地域特性および設置形態に対応した救命救急センターの建築計画指針の設定

4) 学位論文リスト

修士（工学）・島津江玲奈・救命救急センターの運営と建築計画に関する研究

1) スタッフ紹介

山本薫子(やまもとかほるこ)

准教授/博士(社会学)

都市社会学,地域社会学,コミュニティ論,社会調査

9-154 室,TEL:042-677-1111 内線 4233 kahoruko@tmu.ac.jp

2) 研究概要

都市インナーエリアの社会的変容, 再編に関する研究

山本薫子

横浜・寿町地区をフィールドとして, 都市インナーエリア地域の社会構造変容に関する研究を行った。特に①産業構造の変容, ②グローバル化にともなう外国人労働者の流入と定着, ③行政やNPOらが主導する「まちづくり」施策の実施について社会調査を実施し, それらが地域コミュニティの変容と再編にどのように影響し, その結果, 住民の社会的状況がどのように変化しているか分析した。研究成果は学会報告として発表した。

また, 寿町地区との類似事例としてカナダ・バンクーバー市の **Downtown Eastside** 地区での調査、資料収集を実施した。

旧産炭地における社会構造変化に関する研究

山本薫子

閉山後の地域社会の変化について, 産業構造の転換というマクロな事象を背景として, 労働者とその家族, 地域住民のライフヒストリー分析に焦点を当てながら明らかにする。本年度は, 山口県宇部市, 美祢市, 北海道赤平市などでの調査を実施し, データ蒐集に努め, 分析を実施した。また, 他大学研究者とともに研究会を開催した。

原発避難の実態把握に関する研究

山本薫子

2011年3月に発生した福島第一原発事故にともなう警戒区域のうち, 富岡町からの避難者の生活、意識調査の動向を探るため、研究会としてインタビュー調査、分析を実施した。

3) 研究成果リスト

2. 口頭発表

山本薫子

「横浜市における「創造都市」施策の展開とインナーエリアの再編」、日本都市社会学会大会第29回大会、2011年9月。

3. その他

3 - 1. 専門書

山本薫子

「貧困・格差と地域社会」, 地域社会学会編『新版キーワード地域社会学』ハーベスト社,316-31, 2011年5月.

山本薫子

「外国人労働者をめぐる社会運動の変化と展開」, 明石純一編『移住労働と世界的経済危機』明石書店,pp.159-174, 2011年9月.

3 - 2. 研究報告

神奈川大学曾我部研究室・東北大学小野田研究室・鈴木伸治・山本薫子

「寿から考える：価値観の変化にともなう都市空間の再編」, 「東京 2050 //12 の都市ヴィジョン展」(丸ビルホール)、2011年9月～10月.

3 - 3. 解説・評論・一般論文

山本薫子

「都市下層地域における包摂と排除 「福祉の街」へと変化した横浜・寿町」, 日本都市計画学会「都市計画」no.293: 48-50、2011年10月.

山本薫子・饗庭伸・若林芳樹・松本真澄・坪本裕之・門脇耕三

「「郊外都市住民の地域生活に関する調査」報告ー東京都立川市におけるコミュニティの状況と住民意識」

「都市科学研究」第4号: 71-86、2012年3月.

長野基（ながのもとき）
准教授／修士（政治学）
都市行政、地方自治、ローカル・ガバナンス
9-560 室
電話 042-677-1111 内線 4163
E-mail : nagano@tmu.ac.jp

【長野基】

自治体政策の形成と議会への市民参加の研究

長野基

自治体における政策形成・政策選択の問題について、自治体議会への市民参加の観点から研究を進めた。具体的には議会改革に関する全国アンケート調査（口頭発表）から、近年の議会改革の一つの焦点となっている議会基本条例の内容の動向や、市民参加と議会による政策開発や政策意思の行使との関係を主に計量的手法で分析した。結果、「議員立法」と首長側提出議案への「議会による修正」では促進させる構造が異なること等が明らかになった（査読論文）。

基礎自治体における係争的施策領域への無作為抽出型市民参加手法の適用に関する研究

長野基

理論的研究・事例研究と並行して、アクションリサーチによる研究を進めるため、無作為抽出型市民参加の取り組みを自治体計画策定と「事業仕分け」の双方の目的のために実施された東京都新宿区「第2次実行計画策定に向けた区民討議会」の実施企画運営を担った（研究報告書）。また、「事業仕分け」への取り組みに初めて住基台帳からの無作為抽出による市民参加が行われた埼玉県を対象に県内全市町村対象への実態アンケート調査を実施した（『月刊自治研』2012年5月号にて成果報告予定）。

1. 審査論文

：学術雑誌等に掲載の審査付き論文

長野基（2012）「市区町村議会の改革とその成果に関する計量的分析」,

『自治体学』（自治体学会）Vol.25.No.1, pp.88-95,2012年3月

2. 口頭発表

：学会，研究会等での口頭発表

長野基（2011）「全国自治体議会の運営に関する実態調査 2011 調査結果概要」,市民と議員

の条例づくり交流会議 2011（第 11 回）「議会改革の到達点」, 2011 年 07 月（龍谷大学
深草キャンパス）

3. その他

3 - 1. 専門書

: 専門書, 学術書, 訳書

共著

『議会改革白書 2011 年版—どこまですすんだ!? 議会改革』(生活社)

<分担執筆箇所>

長野基・廣瀬克哉 (2011)「全国自治体議会の運営に関する実態調査 2010 調査結果概要」,
廣瀬克哉・自治体議会改革フォーラム編 (2011)『議会改革白書 2011 年版』(生活社),
pp.84-89, 2011 年 7 月

長野基 (2011)「全国自治体議会の運営に関する実態調査 2011 調査結果概要」,廣瀬克哉・
自治体議会改革フォーラム編 (2011)『議会改革白書 2011 年版』(生活社),
pp.140-149,2011 年 7 月

長野基 (2011)「条文分析 2010 年制定の議会基本条例に見る議会改革の動向」,長野基,
廣瀬克哉・自治体議会改革フォーラム編 (2011)『議会改革白書 2011 年版』(生活社),
pp.204-223,2011 年 7 月

3 - 2. 研究報告

: 研究報告書, 報告記事, 等

長野基ほか (2011)『当麻よし子・埼玉県所沢市長マニフェスト進捗状況 外部評価 報告書』
(2011 年 6 月)

長野基ほか (2011)『東京都新宿区 第 2 次実行計画策定に向けた区民討議会実施報告書』
(2011 年 12 月)

3 - 3. 解説・評論、一般論文

長野基 (2011)「マニフェスト・基本構想～「基本計画」に基づく政策運営と候補者選択」,
『地方自治職員研修』(公職研) 2011 年 4 月号, pp.35-37, 2011 年 4 月

長野基 (2012)「地区まちづくりを支えるリーダーシップに関する都市レジーム論からの一
考察—新宿区西早稲田地区を事例として—」,『都市科学研究』(首都大学東京大学院都市
環境科学研究科都市システム科学域) 第 4 号, pp.87-98,2012 年 3 月

4. 文部科学省科学研究費

長野基

研究種目：若手研究(B)

研究課題名：基礎自治体における係争的施策領域への無作為抽出型市民参加手法の適用に関する研究

役割：代表

5. 講演

長野基（2011・2012）埼玉県「彩の国さいたま人づくり広域連合」「政策課題共同研究」講師（政策研究アドバイザー）：政策研究グループへの助言指導（23年5月～24年3月）

及び埼玉県・県内市町村職員向け研修講演（2011年5月、2011年9月、2012年2月）

長野基（2011）埼玉県三郷市職員研修「市民参加による評価を行政改革に結びつけるには？」（2011年11月）

長野基（2012）埼玉県和光市議会議員研修「地域主権改革一括法と議会の役割について」（2012年1月）

都市システム科学域 博士前期課程

学生氏名 論文題名

1	国重 安沙	地域コミュニティの拠点の変遷-記録を残さなかったまちの繋がりの歴史-	饗庭 伸
2	蔡 雅静	大都市における地下街の変遷と今後のあり方に関する研究	饗庭 伸
3	根岸 とも子	鍼灸治療院利用者の鍼灸活用の関連要因の構造分析	星 旦二
4	井上 久美子	都市住民における社会活動とその関連要因の構造分析	星 旦二
5	江口 百合恵	学習・生活展開の実態からみた病弱・虚弱特別支援学校の建築計画に関する研究	上野 淳
6	韓 肖夏	北京市における四合院の保存可能性-居住者調査と便益評価をもとにして-	伊藤 史子
7	金 一品	中国上海市における高齢者の主観的幸福感の構造分析-自己効力感と相互関連性-	星 旦二
8	小森谷 奈月	土地区画整理事業から見た戦後の大火復興都市の空間特性-飯田大火、熱海大火、酒田大火を比較して	饗庭 伸
9	近藤 瑞希	放置型産業遺産の活用に向けた地域社会の取組過程-北海道・旧雄別炭礦を事例として	山本 薫子
#	斎藤 利行	さいたま市岩槻区におけるまちづくり活動の展開過程に関する研究-観光まちづくりに着目して-	山本 薫子
#	島津 江玲奈	救命救急センターの運営と建築計画に関する研究	竹宮 健司
#	田中 雄士	大規模災害被災地における復興プロセスに関する研究-インドネシア・スマトラ島pariaman県の農村集落を対象として-	玉川 英則
#	田中 里奈	帰宅困難者のための一時的滞在場所としての地下空間の利用に関する考察	玉川 英則
#	布川 悠介	街路上のグラフィティ分布に関するネットワーク空間分析-高円寺駅周辺を対象として-	伊藤 史子
#	比野 裕介	小笠原諸島父島における津波避難に関する研究	玉川 英則
#	平岡 祐樹	今日の小学校における学習・生活展開の実際と学齢段階による特徴に関する考察	上野 淳
#	藤原 裕	人体被災度評価のための臓器を含めたサイバーダミーの開発	長嶋 文雄
#	宮崎 真和	中四国におけるプロ野球開催のための野球場づくりに関する提案	伊藤 史子
#	元神 理明	持続している商店街の特性に関する研究-店舗の入れ替わりに注目して-	饗庭 伸
#	八隅 裕介	天空図による都市空間の時系列分析と評価手法の開発-法規制による建物高さの変化に着目して-	饗庭 伸
#	山崎 健太郎	社会的ネットワークから生まれる建築ストックのシェア型活用についての研究-やぼろじにおけるケーススタディ-	饗庭 伸
#	尹 美眞	住商複合建物の商業施設の運営・管理に関する韓国と日本の事例比較-1960年代中頃から1970年代前半に建てられた建物を中心にして-	饗庭 伸

都市システム科学域 博士後期課程

学生氏名 論文題名

1	王 雷	中国における鉄道貨物輸送量と人口・産業分布の関連性に関する研究	玉川 英則
2	坊迫 吉倫	都市高齢者における社会経済的要因と幸福感・生活満足感・主観的健康感及び生存日数の構造研究	星 旦二